

○5番（帰山寿憲君） おはようございます。市政会の帰山です。

日本各地から、例年より早い初雪の便りが聞かれるように思います。当初、暖冬の予報もありましたが、エルニーニョ現象の終息とともに厳しい冬との予想も出されるようになりました。もっとも、エルニーニョ現象が発生していた期間が大変短いため、規定を満たさず、最近はやりのなかったこととされるようです。昨日、勝山市でもスキー場の安全祈願祭が行われ、雪乞いがされました。いよいよ本格的な冬を迎えることとなります。なかなか難しいことではありますけれども、生活に大きな支障なくスキー場のにぎわいを期待したいと思います。

さて、山岸市長には4選おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。今後4年間、ますますの勝山の発展に御尽力をいただきたいと思います。今回は、山岸市長の今後の施策展開を含め4項目について伺います。

最初に、山岸市長に今後の施策展開について伺います。

山岸市長は、今回の4選後の初登庁職員訓示の中で、「4期目に何をするのか、どのような政策を打ち出していくのか」について述べられており、その上で市議会においても同様の質問が出されるであろうとされています。したがってというわけでは決してございませんが、やはりここは外せないところです。本来は、今後の施策展開全般について伺いすべきところですが、さまざまな形でお答えをされておられますので、ここでは以下の点について伺います。

山岸市長はこの訓示の中で、「過去12年間のまちづくりの延長線上にあるものを具現化する。これからの4年間も、ふるさとルネッサンスの理念のもと、エコミュージアムによるまちづくりを探求する。それには目指すべき方向性、推進力となる組織、その機能、そのような活動に対する市の適切な支援に対して常にチェックが必要である。勝山市エコミュージアムが目指すものはいい町をつくることに尽きる」と述べられています。

そしてこの具現化については、日刊県民福井のインタビューにて、4期目に特に力を入れたい施策は、その具体策はとの問いに対し、「これまで追及してきたのは地域力と市民力、それを地域の産業力に育てることが可能だ。北谷の鯖の熟れ鮓し、野向のエゴマ、荒土の木炭などにその兆しが見られる。農業の6次化産業の動きもあり、そのマーケットが必要。中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジから市内に入ってくるルートができるため、周辺にいろんな用途で楽しめる道の駅をつくっていききたい」と語られています。

中でも地域の産業力について、福井新聞は11月19日付の論説の中において、「勝山市は2002年に推進計画を策定し、これまでに補助事業での野向町のエゴマ油、北谷町の鯖の熟れ鮓しなど数々の地域ビジネスの芽を生み出してきた。しかし、ビジネスとしてはいずれも発展途上。エコロジー先行でエコノミーが追いついていない」と評しています。時折、エコミュージアムの経済効果については不安や疑問の声を聞くことがあります。

さきの市長のお答えは、私はエコミュージアムのもう片方の足、エコノミーを強く意識されたものと捉えています。そこで伺いますが、これまで12年間において、勝山市の財政については数字があらわすとおり大きく好転しました。現在の経済状況のもとでは歳入に不安は残りますが、これは間違いないことです。一方で、まちづくりについてはなかなか数値で表現できるものではありませんが、既にエコミュージアムから生まれてきたものがあります。

しかし、先行している事業も含め、論説にもあるとおり、ビジネスとして今後の発展性はあるのか、

また地域全体で支えていけるのか、さまざまな不安や疑問も残るのではないのでしょうか。完成度や地域ごとのばらつきも見られるようです。今後に向けてのチェックのみならず、これまでの実績に対するチェック、つまりエコミュージアムが生み出してきたもの、その内容や実績に対して改めて評価と分析を行うことが必要だと思いますし、その結果を踏まえ反映させることが、さきの具体策実現のために必要でないかと思いますが、お考えを伺いたいと思います。

2番目に、恐竜かつやまと観光振興について伺います。

先般、山陰の鳥取・島根両県、北海道富良野地域を視察してきました。多少差異はありますが、主な目的は観光振興と産業振興についてです。地域が支える観光、熱意が作り上げる産業、さまざまな形を改めて視察してきました。一つのテーマをもとに継続と発展を続けることがいかに重要であり、いかに困難なのかを改めて認識させられた次第です。

鳥取では、観光地としての美保関ミュージアム、境港の鬼太郎、北栄町のコナン、富良野ではスキーリゾート、北の国から、風のガーデンが生み出す観光ルート、新旧の手法を織りまぜて、それぞれ持てるものをフルに生かしている地域もあれば、とるべき手法を間違えたために不完全燃焼している地域もありました。

その中で、改めて今回気がかりとなった点があります。「ゲゲゲの鬼太郎」といえば水木しげる、そして境港市です。これは皆さん、御存じかと思います。では、「名探偵コナン」の青山剛昌と北栄町。コミックの発行部数が1億4,000万部を超え、今やテレビゲームにもなっております。現在でもテレビアニメとしての人気は高い漫画です。皆さんも当然御存じかと思います。さて、作者はとなると誰だっけという方も多いと思います。まして出身地はとなると、もはやとなるわけです。蛇足ですが、青山剛昌記念館に隣接する道の駅大栄は、道の駅第1号です。

富良野市といえば、F I Sワールドカップとスキーリゾートと答える方は少数となったかもしれません。やはり、「北の国」からのロケ地として圧倒的な知名度があるようです。数年後放映された「風のガーデン」もよくできたドラマだとは思いますが、シーズン数が違ったようで、今後の展開を待つ状況です。知名度が高いことは誘客に強い、余りにも当然ですし、そこにはそれだけの印象を持てる内容と結びつきがあるようです。

いつも視察に伺うときには、恐竜を初めとする勝山の観光パンフレットを持参するわけですが、見ていただいたときの反応がいま一つの感じを受けています。パンフレットのできふでではなく、勝山市と恐竜の関係の認知度が低い、または印象がないような反応が多いわけです。自分たちが思っているようには知名度がないと感じざるを得ません。急な飛び込み視察ではありませんし、事前に受け入れの準備をいただいているのですが、事恐竜に関する限りでも、勝山市では恐竜の化石が出るのですか程度の反応も多々あります。地道なPR活動が必要であることは重々承知していますが、勝山と恐竜を結びつけ、どのようにして内容を伴う認知度を上げるのか、今後の対策を伺いたいと思います。

また、2014年度末の北陸新幹線の金沢延伸も車両のデザインも公開されるなど、開業間近となってきました。評価が分かれるカラーリングのようですが、ファーストクラスとも言えるグランクラスも導入されるようです。石川県では、既にSTEP21としてホームページも開設し、開業効果を最大限引き出す取り組みも始まっています。その中では経済効果を121億円と予想しています。工夫次第では、勝山市でもそれなりの経済効果を得られるはずですが、勝山市と金沢駅は車で1時間30分程度です。

以前、富良野市の観光協会では修学旅行の誘致について説明を受けた際、担当の方が大変気にかけてい

たのが、旭川空港の航空ダイヤと料金でした。九州、大阪からの直行便の減少と包括的な学生団体運賃の変更により、受け入れ数減少の可能性があるとして今後の対策を練られておられました。旭川空港と富良野市の距離も、金沢駅と勝山市の距離と大きくは変わらないと思います。対策の内容がそのまま利用できるとは思えませんが、距離的には問題がないと思います。開業までの2年間という時間は、もはや十分なプロモーションを行う期間としては短いかもしれません。特に修学旅行を誘致しようと考えれば、実施学年を考えるともう遅いかもしれません。

単なる思いつきですが、市内のバス会社とスキー場が手を組むことにより新しい形をつくれるかもしれません。スキー場の従業員をガイドとして乗せ、金沢駅まで送迎バスを出し、勝山滞在中は指導員として常に行動をとる、スキーの指導員の資格やバスガイド、添乗員等の資格が絡むとは思いますが、一環した対応ができ、生徒側も親しみが湧く気がします。ガイド個人の資質に負うところが大きくなりますが、一度検討をしてみても、おもしろいかなとは思っています。

以上は思いつきにしかすぎませんが、いろんなPRポイントをつくり、修学旅行の誘致を関東地方の学校や旅行会社に行くことが必要ではないかと考えます。既に石川県ではさまざまなプランをつくりセールスをしています。改めて勝山市としての新幹線金沢開業における対応を伺います。

また、先ほどの恐竜かつやまの知名度向上に関して、市役所庁舎の名前を恐竜に関連した名前に変更できないかを伺いたいと思います。勝山市の名前を変えることは、民間を含めて大変負担が大きいものですし、結局応募はありませんでしたが、泉佐野市のネーミングライツのように物議を醸すかもしれません。しかし、庁舎名のみならずほどの負担もなく、大きいメリットを得られる可能性が高いと思います。私の知る限り、庁舎に関しては法律上は所在地に関する条文はあるものの、特に庁舎の名前を勝山市役所としなければならないということはないようです。恐竜勝山市役所でも構わないわけです。できたら全国公募でもすればインパクトが高いと考えますが、お考えを伺いたいと思います。

さらに、勝山市の公印、つまり勝山市公印規則で定められているものですが、角印の中に恐竜の足跡等の図案を配して作成し、使用するわけにはいかないのか、あわせて伺いたいと思います。

3番目に、用水の整備と利用について伺います。

先般、市議会は砂留花用水の維持管理について陳情を受け、対応をさせていただきました。同用水は、上流域では農業用水として利用されており、下流域では生活用水として利用されているのですが、あくまで農業用水であるために、その維持管理の地元の負担をもとに発生した事案でした。最近では、その整備は農業用水で行われたものの、生活用水での利用も多くなっている用水が多くありますが、その維持管理について農業者のみに負担を求めることについてお考えを伺いたいと思います。

一方で、勝山用水は、市街地においては生活用水としても活用されていますが農業用水です。そして、その整備の経緯はあるとは思いますが、その維持管理は全て市が行っています。そして、この写真。この写真は若猪野地籍の県道の橋の上から、西方向と東方向を撮影したものです。一目でおわかりいただけると思いますけれども、上流である西側、ほぼ満水の状態です。橋を一つ隔てた下流域です。県道をまたいだだけですね。余裕十分です。この間に、橋一つですが、当然ほかへの流出があるわけではございません。これから冬に向けまして水量が求められるわけですが、用水のしゅんせつの有無はありますし、構造という問題もありますけれども、水利権の問題、女神川の下をくぐる構造であることを考えると、九頭竜川からの取水口から取り入れる水量というのはもはや限界であるかなと考えます。

次に、こちらの写真です。この写真、全てが先ほどの撮影場所の近辺です。女神川を水源とします農業用水からの流れ込みです。4カ所あります。100メートル以内にあります。かなりの水量、農閑期である現在でもこれだけの流量があるのですけれども、既に下流域では不足しているということが起きております。勝山用水の取り入れ口の取水が限界であるのならば、こうした農業用水からの流入を確保することが必要じゃないかなと思うわけです。これらの農業用水も維持管理の負担が大きいため、以前のように流量を確保することができなくなっています。ひいては勝山用水の流量不足の一因となっていることも考えられます。このような農業用水の整備に関しては、生活用水としての利用を考慮し、負担を軽減、勝山用水への流入量を確保することにより勝山用水の水量を確保することができると考えますが、お考えを伺いたいと思います。

最後に、生活排水の水質の維持管理について伺います。

先日、伊知地板東島地区農業集落排水事業施設が完成しました。これで勝山市の下水道整備のうち、農業集落排水事業については完結したことになります。今後は、基本的には下水道整備になるわけですが、一部には浄化槽で対応せざるを得ないわけですし、現在も浄化槽は使用されています。当然、浄化槽には清掃と保守点検、法定検査が管理者に義務づけられています。

ところで、先日の報道によれば、福井県の法定検査実施率は8.9%とされていました。全国でも低い数値です。勝山市の場合、平成23年度勝山の環境によると、河川の水質状況には特に問題はないようですが、今後も十分に注意を払う必要があります。そこで、勝山市の浄化槽設置数と今後の見込みを伺いたいと思います。また勝山市では、設置者に対し最初にどのように説明、案内しているのか、あわせて伺いたいと思います。

今後、下水道の延長に伴い設置数は減少するとは思いますが、さきに触れたとおり、どうしても浄化槽が一部に残るわけであり、その管理は個人に委ねられるわけです。では、下水道が完備できない地域の浄化槽設置に関しては、補助金ではなく勝山市が設置し、下水道利用時と同じく施設負担金と月ごとの使用料をいただき、市が維持管理を行うことは考えられないかあわせて伺います。

以上についてお伺いいたします。

○副議長（門 善孝君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） おはようございます。

エコミュージアムにつきまして、いろいろ考え方を質問されておりますので申しますけれども、議員の今のお話を聞いていると、最初に議員自身の勝山市エコミュージアムに対する評価はどうかというのをお聞きしたい気持ちが湧いてきます。私の答弁の後にお答えくださるようお願いいたします。

エコミュージアムの取り組みの歴史を今さらひもとくつもりはなかったんですけども、現時点でしか見ていない福井新聞の論調や、時折聞くとされる不安や疑問の声を、議員が肯定されるのであれば、少し説明を加えたいと思っております。

勝山市エコミュージアムは、私が市長に就任して以来、ふるさとルネッサンスの実現に向けて、まちづくりを具体的に推進するための政策として提唱しスタートいたしました。その根底には、「ものの豊かさではない新しい価値観に基づいた豊かさ」を迫及していくことをコンセプトとして、勝山市の自然、歴史、伝統、文化、産業など、先人から受け継いできた地域の遺産を見詰め直して、魅力を再発見し、それらを継承発展させることによって地域の自信と誇りを取り戻すことを目指してきました。この取り

組みによって地域の力を引き出し、勝山市の新しい活力を市民みずからが生み出していく仕組みをつかって事業化してきたのであります。

以来、事業は、わがまち元気発掘事業に始まりまして、元気創造事業、元気発展事業と3年ごとにステップアップして、現在第2期事業ともいえる、わがまち魅力醸成事業に発展的に継承されて現在に至っています。この10年の間に、市民が提案し、市民が実施したエコミュージアム事業の数は206事業に上ります。

初期の段階では、勝山の10地区の歴史や文化の再発見に取り組む事業が多く、各地区のアイデンティティを醸成して、地域の力を引き出す大きな力がありました。振り返ると、この中から生まれて、今も発展的に継承されている多くの事業があります。

列記すれば、村岡町では、村岡山ちょうちん登山、村岡山城の遺跡整備、ホテルの里村づくり。

荒土町の炭焼き窯の復活による炭の生産、檀ヶ城・堀名鉱山跡の整備、歴史ウオーク。

北谷町の鯖の熟れ鮨し作製事業は平成15年の講習会から始まり、平成20年に企業組合となってコミュニティビジネス第1号となりました。また、谷のブナ林保存、昔祭り復活事業、伝承料理の試作とレシピの作成などがあります。

北郷町では、鷲ヶ岳登山道と畑ヶ塚の整備、ホテルの里づくり、鮎の巻きずしなど。

また勝山地区では、歴史的遺産、所在地跡の石柱設置事業、かつやま土曜夕市、年の市のボトムアップ、まちなか歴史ウオーク、大清水まつり。

平泉寺町では、歴史漫画本「平泉寺物語」の出版、歴史名所旧跡標柱の整備、白山平泉寺女神祭り。

鹿谷町では、城山登山道の整備、ござぼうしづくり、報恩講料理講習、雪像コンテスト。

遅羽町では、バンビライン整備とカタクリの花観察会、三室祭り。

猪野瀬地区では、大師山に桜の木を植えるなどの周辺整備、また花野菜等食文化事業、報恩講料理講習、ヤーコンの栽培と加工品化の事業。

野向町では、エゴマ油事業、コスモスまつり、野向ふるさと再発見事業などです。

また、平成17年度から市民団体等の部を創設いたしまして、勝山ネイチャークラブが勝山の四季を親子で体験する自然体験イベントと、それに続く一連のネイチャー事業は、現在の前園コーディネーターを招聘する下地をつくってきました。北谷はやし込み保存会では、はやし込みまつりの復活、北谷冬物語として谷のお面さん、雪だるま祭りを広く紹介して、廃れつつあった山村の伝統的文化を復活しました。小原ECOプロジェクトでは、古民家修復、赤兎山開山祭と登山道の整備、山村生活体験ツアーなどを実施して、廃村寸前であった小原集落が注目されて、新しく蘇生するきっかけをつくりました。

勝山青年会議所では、九頭竜川自然体験学習、かわがき冒険隊、クリーンアップ九頭竜川、また勝山左義長ばやし保存会の後継者育成事業、おはやし指導、そのほかにも越前禅定道マラソン、勝山エコミュージアム企画によるネイチャーワールド、わくわく体験学習隊から生まれた自然観察会と、これも起点はエコミュージアムであった恐竜化石発掘体験、取立山ミズバショウ探勝登山、勝山観光協会によるうまいもん祭、鯉のぼり吹き流し事業、縄文料理研究会による勝山の特産品を生かした伝承料理、ドレミ音楽舎、かつやま音楽家のたまごたちコンサートなどがあります。

そして、平成20年度から発展事業が始まり、今までの一般提案の部に加えて、共同事業の部とパワーアップの部を新設いたしました。共同事業では、ラブリー牧場と勝山城博物館、大師山清大寺のコラボによる体験ツアーも行われ、連携した力でそれぞれの魅力を引き出しました。

改めてこれらの事業を振り返ると、まさに自然、歴史、文化、伝統、音楽、芸術、環境教育との各分野を網羅しており、景観形成意識やエコ環境保全の取り組みは、現在の蛍や赤トンボ保全活動の原点にまでさかのぼることができます。参加者も高齢者ばかりでなく、児童生徒から若者まで各層にわたっています。また、今根づいている行事や事業が、このエコミュージアムを起点として始まったものや、てこ入れしたことによって復活したものが多いことなどに改めて気がつきます。

この中からお尋ねのエコノミーに関するものを抽出するならば、荒土町の炭焼き、北谷の鯖の熟れ鮓し、北郷町の鮎の巻きずし、遅羽地区を中心とした縄文料理研究会による伝承料理、野向町のエゴマ事業、かつやま土曜夕市、年の市、勝山うまいもん祭、恐竜化石発掘体験などを挙げることができ、さらにはエコミュージアムの発展形としての新たな事業である、かつやま逸品開発・販路開拓事業による西ヶ原のニンニクや小松さんのバラジャムなども挙げるができます。

ここで私が言いたいのは、私のエコミュージアムにおけるエコノミーの考え方は、福井新聞の論調とは若干違います。それは、勝山市エコミュージアムの基本はエコロジーであって、ストレートにエコノミーを目指すものではないということでもあります。したがって、エコロジーとエコノミーはスタート時点から並列しているものではなくて、エコロジーからスタートしたコミュニティ活動の形成過程で生まれてくるものがエコノミーの価値を生み出し、それをきっかけとしてエコノミーの部分を膨らませていくというものであります。鯖の熟れ鮓しはこの例によく当てはまります。

最初は、地域の食文化活動として伝統的郷土料理の復活を共同レシピづくりから始めました。これは平成15年のことです。そのレシピの作成過程で、自分たちだけではなくて、一般の人たちに味わってもらって、味つけの研究をしようということから広まって評判となり、数多くの努力の結果、平成20年に企業組合を設立して現在の事業化に至っています。その間、5年間に実に過疎地域の力を結集してでき上がったものです。ちなみにこの企業組合の定義は、「利益追求のみではなく、生きがいや志に共感した事業者、勤労者、主婦、学生などの個人が集まり、みずからの働く場を創造するために一つの企業体となって行う組合の法人組織」とあって、いみじくもエコミュージアムにおけるエコノミーを表現しています。

一方、野向のエゴマは、試行錯誤はあったでしょうが、着実に栽培と搾油の技術を習得して事業化して、株式会社を設立してエコノミーを目指しています。そのきっかけとプロセスは、野向町の伝統的特産物であったエゴマの復活を目指す地区の人たちの情熱と努力が実ったもので、食文化の復活というコンセプトがしっかりあってこそそのエコノミーであると思います。このことから福井新聞が論評しているエコロジーが先行しているのは当然のことであって、エコノミーが追いついてくるのにタイムラグがあることも当然のことなのです。

また、ビジネスとして今後の発展性はあるのか、地域全体で支えていけるのか、さまざまな疑問や不安が残るとしてあります。この課題解決はしていかなければなりません。私は次のように考えています。現行のビジネスを展開していく上で、弱いところは大半の地場商品の製造が季節限定であることと、マーケットが不確実ということでもあります。この二つを解決すれば、不安要素の多くは排除できるので、そのプロジェクトを来年度から始めます。一つは、製品の長期保存と低温発酵のための雪冷凍、もう一つは有力なマーケットとして道の駅、さらには北谷町のコミュニティセンターをつくることでもあります。これを完成させて、その不安を解消します。未来は不確実であって断定はできません。しかし、予測はできます。その予測を不安と見るか希望と見るか、あるいは懐疑的に見るか肯定的に見るか、それは個

人によって違うでしょう。その判断は個人の自由ですが、私は懐疑的に見て不安に落ち込むことよりも、肯定的に見て希望を持って生きることを選択します。

勝山市エコミュージアムのたどった10年の歩みの一端を述べましたが、着実に力強く積み重ねてきたこの数々の実績を顧みると、市民がこの延長線上にあるものを追及する努力を惜しまなければ、希望ある未来が開けると私は確信をしております。このことについて議員はどう思われるのかお尋ねをいたします。

○副議長（門 善孝君） 時計をとめてください。

市長のただいまの反問について、確認をさせていただきます。反問するということですね。（「はい」と市長、呼ぶ）

ただいま市長から議員に対して質問の申し出がありましたので、これを認めます。

帰山議員、質問の内容は理解できますね。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） エコミュージアムに対する私の考えといたしますか、今回述べた質問の趣旨からまず。

私は別にエコミュージアムの事業に対して不平不満を持っているわけでもございませんし、あれだけの206ですか、事業が生まれてきたことは質問の中でも申し上げましたように素晴らしいことだと思っております。

ただ、その生まれてきた経緯が持っているもの、どのようにして地域から生まれてきているのか、今その地域を誰が支えているのか、この二つがもう少し明確になればいいなど。

それともう一つは、今も市長がお答えになりましたけれども、意識としては、いわゆる我々の持っているエコミュージアム、エコミュージアムの勝山市のバイブルというものを読んでないからかもしれませんけれども、一般の人でも読んでいません。エコミュージアムというと、エコとエコロジー、これがエコノミーと両輪だと言われるのは一般の学説なわけですよ。その中で市民の方は、なかなか経済的にはどうなのかなという不安を持っているんです。

今市長がそのようにお話をされまして、エコロジーが先行してエコノミーが追いつくので、今からはそこに向かって進むんだという希望があるんだ、それはそれで非常に今後に対して未来は明るいなど、その説明を私はいただきましたかったんです。皆さんが、勝山市民全員がエコミュージアムを支えているわけではない。私も幾つかお世話になりましたけれども、まだエコミュージアムから遠いところにいらっしゃる市民も多い。その方々がどのように思われているのか、そういうことを踏まえた上で次のステップに進まれたらいいんじゃないかなという意味で私は今回の質問をさせていただきました。

素晴らしいものは素晴らしいと評価しております。否定もしませんし、これからどうあるべきかということについて、いま一度詳細に悪かった点はないか、改正すべき点はないか、チェックした上で次の一步を踏み出したほうがなおよい効果が得られるはずだと私は思うわけです。その意味で今回の質問をさせていただきました。それに結びつけるために各新聞の論評をいただきましたけれども、それもある一定の見方だなと私は理解しています。個人個人の考え方には差異がございますし、全員が一致した意見を持つということも絶対にあり得ないことですので、それはそれでいろんな意見を私は聞いて進みたいと思います。

市長がいろんなところでお聞きになる意見のほうが、私が各地区で聞く意見よりは非常に多いと思

ますし、バランスもとれていることはこれはもう疑いない事実ですし、私の調査能力より山岸市長が市全体で使われる調査能力のほうが圧倒的に多いわけですから、至らぬ点もありますけれども、私の趣旨としましては過去の経緯を踏まえて、さらにそれが生まれてきた経緯をもう一度踏まえた上で次のステップに踏み出していただきたい。

決して私はエコミュージアムを否定するわけではありませんし、よいものにするならば、自分でも一緒ですけれども、自分の過去を振り返って欠点を洗い出し、それを踏まえた上で次へ行けとよく言われますけれども、そういうつもりで今回質問をさせていただきました。よろしいでしょうか。

○副議長（門 善孝君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） ありがとうございます。

私は、今なぜここへ出てきたかと言いますと、エコミュージアムという名前は確かに横文字で、特にお年寄りの方にはよくわからない。始めたころは、これを一生懸命説明してましたけれども、結局言葉がわからなくてもいいんですよ。いい町をつくるということの方法で、それが別にエコミュージアムであるか何であっても、その方向性がいい町をつくるという方向に向かっての事業としてきっちり将来に向かって進んでいけば、それはそれでいいと思っています。

いろいろ現行のことを起点として過去の事例を述べましたけれども、決して自画自賛をしているというそういう意味ではなくて、そういう大きな下地といいますか、基礎といいますか、その基礎ができて、それが私の感覚では順調に伸びてきている。確かに早く伸びているところもあるし遅いところもあるけれども、しかし、大きな土台として、この1点とか小さな点が上に伸びていくのではなくて、範囲を持った、厚みを持った形で伸びてきているということを私は実感しています。したがって、その中から早く伸びるもの、そしてそれが事業化するもの、また地域の活性化に役立つもの、そういったものでどんどんどんどん分化していけばいいと思うんです。ですから、それで後から振り返ってみて、ああ、あれはエコミュージアムというそういうまちづくりが、今のこのような形ができた一つの要因だったんだというふうにわかればいいのであって、何もエコミュージアムだから、これをエコミュージアムの形に当てはめますよというような気持ちはないわけです。

私は、松山議員もエコミュージアム協議会の会長さんをしてましたからその辺はよくわかってらっしゃると思うんですけども、そういうことがなかなかこういう機会でないと言明してわかってもらえないといったことがありましたもんですから、今回いい質問をいただきましたので、いい機会として述べさせてもらいました。ということでよろしくお願ひします。

○副議長（門 善孝君） それでは、理事者の答弁を続けます。

○副議長（門 善孝君） 小林観光政策課長。

（観光政策課長 小林喜幸君 登壇）

○観光政策課長（小林喜幸君） 勝山と恐竜の認知についてお答えします。

勝山と言えは「恐竜のまち」と県内では知られ、福井県立恐竜博物館への入館者は年間50万人を超え、県外客の多くは関西、中京方面からであります。

ことし、横浜市において、ヨコハマ恐竜展2012福井恐竜博物館コレクションが開催され、16万6,620人の入館がありました。恐竜博物館への入館状況は、関東地方からの入館者は6.4%であり、福井県、そして勝山市の関東地方における認知度は低い状況であります。



そこで、勝山市に関連したWEBサイトにどれだけ検索数があるか調べてみましたところ、勝山市の情報検索数は165万件で、県下9市で最下位、ちなみに大野市は427万件で2位でした。また、恐竜をキーワードに検索したところ、勝山市と恐竜博物館では9万件、福井県立恐竜博物館で30万件でした。これは「鬼太郎のまち境港市」の87万件、「りんごのまち弘前市」59万件と比べてもかなり少ない数です。つまり勝山市は情報発信機能が弱く、恐竜の情報発信ができていないことを語っています。

勝山市の認知度を上げるための戦略として非常に重要なのが、内容を充実し、かつ魅力ある情報を的確に発信していくことです。福井県勝山市を全国に知っていただくことには仕掛けが必要であります。ことし4月、中尾彬、池波志乃夫妻に、「勝ち山おろしそば観光特使」に就任していただいた際には、多くのマスコミに取り上げられ、観光促進、経済活動に大きく寄与しました。「勝ち山おろしそば」は、半年間で14万件的検索件数があり、イベントでのおろしそばの売れ行きが今年の30%増や、おろしそば提供店での入り込み客数も増加してきており、WEBでの検索数と比例するといった結果にもあらわれてきています。勝山市は、全国の恐竜化石の8割を発掘しており、世界で有数の恐竜博物館があることなど、WEBサイトの魅力を図る戦略により、勝山市及び恐竜の認知度を高めていきたいと考えています。

次に、新幹線の金沢延伸に係るプロモーションについてお答えします。

北陸新幹線の金沢延伸による誘客については、福井県全体の魅力を高める取り組みが非常に重要であるとの考えから、本年3月、県は「福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン」の策定をし、それをもとに県と市町が協働し、福井のイメージアップとブランドイメージの構築に取り組んできています。

食、自然、歴史、温泉など、福井県には関東地方からの誘客が期待できる素材が豊富にあります。観光客を金沢どまりにさせないためにも、県内が一体となったブランド戦略が必要となってきます。とりわけ勝山市には、世界有数の県立恐竜博物館、日本ジオパークに認定されました恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークでは、恐竜、恐竜化石などの地質、地形遺産、また自然遺産や地域の遺産などがあります。このような素材を起点にあわら温泉、東尋坊、永平寺町などの伝統ある観光地を結ぶことで、まだ福井県に来たことのない人たちに新たな魅力を発見していただき、再び勝山市に来ていただくことも重要であります。一方、金沢から福井、そして勝山市までスムーズな移動ができるような交通機関の利便性を高めていかなければなりません。

現在、県と市町では既存の観光素材や新たな観光素材の収集整理を進めています。これらの素材は来年度以降、JRの北陸デスティネーションキャンペーンや新幹線金沢開業関連のキャンペーンに活用されます。これから開業までには、勝山市、しいては福井県の魅力を的確に情報発信するとともに、観光施設等の魅力アップの取り組みが重要となってきます。

福井県は、「幸福度日本一」などさまざまな分野で全国トップクラスを占めています。福井県新高速交通ネットワーク活用・対策プラン策定委員会で市長が申し上げてきましたことは、金沢の先にある福井への憧れを高めた誘客を行います。県内各地の幸せなシーンを魅力あふれたグラフィックやビデオなどで超一流のプロモーションツールをつくり、関東圏に流します。そのコンテンツとなる幸せをカテゴリー別に分類集約する方法です。例えば、遊の幸せ、食の幸せ、景の幸せ、知る幸せ、癒しの幸せ、福井県の全ての観光コンテンツを集約発信するものです。地域間競争に生き残り打ち勝つためには、金沢の先には魅力ある福井県があり、魅力ある勝山市もあることを、県、市町が一体となって情報発信を行っ

ていくことが重要であることから、引き続き要路に対して訴えていきます。

○副議長（門 善孝君） 上出総務課長。

（総務課長 上出康弘君 登壇）

○総務課長（上出康弘君） 恐竜かつやまと観光振興についてのうち、勝山と恐竜のプロモーションの一環として、恐竜に関連した庁舎名の変更及び公印への恐竜図柄の導入ができないかについてお答えいたします。

一般的に「役所」という言葉を辞書から引用しますと、「公務を取り扱うところ」となっており、国や地方公共団体などの事務所を指す一般名詞でございます。一方、地方自治法では、その事務所の位置については条例で定めなければならないと規定しており、勝山市におきましても勝山市役所の位置に関する条例により定めているところでございます。

また、「勝山市役所」という名称につきましては、市庁舎の設置及び管理に関する条例などで定めているわけではなく、勝山市にある役所の庁舎の名前を市民や来訪者にわかりやすいように市制施行当初から現在の勝山市役所としているわけでございます。

御質問の庁舎名の変更についてでございますが、今のところ改める必要性はないと判断しております。また、勝山市の公印につきましては、勝山市公印規則において、公印の名称、寸法、形式、用途、書体について、その印影を付して規定しております。議員御提案の公印の中に恐竜の足跡等の図案を配置するという点については、今のところ考えておりません。

○副議長（門 善孝君） 丸山農業政策課長。

（農業政策課長 丸山真寿君 登壇）

○農業政策課長（丸山真寿君） 用水の整備と利用についての御質問にお答えします。

勝山新旧大用水につきましては市が、その他の農業用水につきましては、その受益者等が中心となってその維持管理を行っていただいております。その他の農業用水につきましては、農業者のみでは十分な維持管理が困難な場合には、受益者より負担金をいただき、補助事業を行っております。

また、農業者の負担軽減を図るため、国庫補助事業であります農地・水環境保全対策や中山間直接支払いなどの事業を効率よく活用しているところでございます。特に生活用水が占める割合が多いところにつきましては、毎年生じる維持管理等につきましても、建設部と連携を図りまして、関係受益者と協議をしております。

○副議長（門 善孝君） 多田上下水道課長。

（上下水道課長 多田栄二君 登壇）

○上下水道課長（多田栄二君） 次に、生活排水の水質の維持管理についてお答えいたします。

勝山市の浄化槽設置数ですが、し尿処理のみを行う単独浄化槽と台所などの生活雑排水も一緒に処理する合併処理浄化槽を合わせると、平成24年10月末現在で540基です。今後は、公共下水道や農業集落排水への接続に伴い廃止されることから、減少すると見込まれています。また、公共下水道の供用開始区域や農業集落排水区域内に多くの浄化槽が存在していることから、設置者の方々に自宅訪問やチラシなどを通じて下水道への接続依頼をしております。

初めて浄化槽を設置される方につきましては、公害防止条例に基づき市へ浄化槽設置届を提出し、その届け出書に保守点検委託請書等の写しを添付していただいております。今後、保守点検などの指導監督機関である県とともに、適正な維持管理について指導してまいります。

また、浄化槽設置を補助金制度でなく市が設置し、維持管理できないかとの御提案でございますが、既に設置済み浄化槽の取り扱いや今後新たな浄化槽設置者の同意などさまざまな問題があり、困難であると考えられます。

○副議長（門 善孝君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） では、若干突っ込んでお伺いしたいと思っております。

まず、恐竜かつやま振興について、いろいろなお答えをいただいたわけですが、一つ、私からもう一度お伺いしたい。なぜ境港と北栄町の認知度に差が出ているのか、これを観光政策課としてはどのようにお考えなのか、まずこの1点。

それと、金沢延伸に係るプロモーション、プロモーションはいろいろあると。全て県におんぶにだっこで市単独としてどうして考えられないのか、この2点について伺いたいと思います。

○副議長（門 善孝君） 小林観光政策課長。

（観光政策課長 小林喜幸君 登壇）

○観光政策課長（小林喜幸君） 再質問についてお答えをいたします。

勝山と恐竜の認知について、境港市との差がなぜ出ているのかという点についてお答えをいたします。

勝山市における素材は、鬼太郎のまち境港より劣っているというようなことは毛頭考えておりませんし。

○副議長（門 善孝君） 今の帰山議員の質問の趣旨が。（「違う。境港と北栄町が何で差がついたのか、それをわかっているのか」と帰山議員、呼ぶ）

○観光政策課長（小林喜幸君） ちょっと調べていませんので、それはわかっておりません。

○副議長（門 善孝君） 松村副市長。

（副市長 松村誠一君 登壇）

○副市長（松村誠一君） 再質問についてお答えいたします。

新交通の関係で金沢からのプロモーション、単独で考えられないかということなんですけれども、今勝山市も新交通に関連しまして県の協議会に入りましていろいろ意見交換をしております。もちろん、県の計画には載っておりますけれども、それぞれの自治体でも勝山市も環白山等、いろんな仕組みの中で動いておりますので、独自でプログラムを組むことも考えております。例えばジオパーク、全国に24カ所ありますけれども、北陸では3カ所、金沢からちょうど右の白山市と勝山がジオパークで、これは連携をしているんな事業を進めておりますので、こういったことが滞在型の一つのメニューになると思います。

とにかく関東のほうから来る方は、石川県へ行きたい、福井県へ行きたい、そういうことは思っておりません。北陸のどこどこへ行くということですから、当然県も越えていろんな事業を組んでいかなければならないということを県の協議会でも私も発言をしておりますので、そういった関係で近隣で同じような魅力のあるところを連携しながら進めていきたいと考えております。

次に、ゲゲゲの鬼太郎とコナンについてですけれども、これは私の個人的な見解ですけれども、やはり打って出る、このゲゲゲの鬼太郎のキャラクターでこういった示せるものが非常に魅力があったということで、コナンとしては漫画としてはあれですけれども、その中で街頭に彫刻を置いて目立つものがあったのか、そういった点では異なると思いますし、NHKの朝の番組なども非常に効果があったとい

うことで、いろんな要因で差がついていると考えられますので、いろいろと今後勉強を重ねて生かしてまいりたいと考えております。

○副議長（門 善孝君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） 副市長、煩わせました。

確かに境港と北栄町、我々も行って見るまで、それほど差が開いているとは思わなかったわけです。

ついでに言うと、美保関ミュージアム、三つ並べて、うんとうなって帰ってきたわけですけども、ぜひとも境港目指して頑張っていたいただきたいと思います。

それと新幹線のプロモーションですけども、どうしても民間の営業というものは大きいものが勝つ、大きく営業した、何て言いますか、そういう戦略があるわけですね。強いところが小さいものを巻き込んでいくと。決してその巻き込まれるほうにはなっていたきたくない。できたら勝山市内で完結するのが経済的には勝山市が一番いいんですけども、そもいかないとなれば、巻き込まれてちょっとだけよというのだけは、避けるためにもしっかりプロモーションを行っていたいただきたいと思います。

次に、市庁舎の名前とそれから公印ですけども、必要ないとかそういうレベルで私はお答えをいただきたいくはないと。考えてみてもおもしろいんじゃないか。それはやらないほうが楽に決まっています。なぜそういうことをここで一般質問で述べてるかということ、それによって勝山市の知名度が上がればいいんじゃないかと。それと別に何もする必要なんか一つもないですよ、正直言えば。それでいったら、毎日淡々と仕事をこなしているだけで、別にそんなこと考えませんと。勝山市役所は勝山市役所です、一歩さがっても勝山市役場ですと、それでいいと思うんですよ。そこから市庁舎として、山岸市長ではないですけど、生まれるものは何もないと、私も思います。

一方、何でやらなあかんのか、やってみてもいいんじゃないかという考え方をしてから、現時点では今考えないというお答えをいただきましたか、正直言うと。必要はないと、そういう冷たいのは。

それから勝山用水、これ一つ、流入する用水についてどう考えるかというお答えをいただいていないような気がするんですがいかがでしょうか。

○副議長（門 善孝君） 丸山農業政策課長。

（農業政策課長 丸山真寿君 登壇）

○農業政策課長（丸山真寿君） 勝山新大用水に流入する農業用水ということで、冬場の流入のことをお聞きだと思んですが、そのことにつきましては、生活用水に使用されるという農業用水の位置づけであると認識して、先ほどの答弁をさせていただきました。

○副議長（門 善孝君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） その御答弁ですと、勝山市は勝山用水に対する水量の確保に対して、農業用水を利用する努力をしないという考え方でよろしいわけですか。

○副議長（門 善孝君） 丸山農業政策課長。

（農業政策課長 丸山真寿君 登壇）

○農業政策課長（丸山真寿君） 初めの答弁でも申し上げましたとおり、そういった少しでも勝山大用水の流入確保のためには、生活用水に利用されておりますわけですから、建設部と連携をとりながら、少しでも農業者に御負担がかからないようなことを協議しながら進めていきたいということでござい

す。

○副議長（門 善孝君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） その補助金の額というのが、あの長い農業用水を全部整備するのに十分な額か、一度十分お考えいただきたいと思います。

それと、先ほどパネルで示したわけですが、あえてもう一回は出しませんが、あのパネルを見て気がつかれた方は気がつかれたと思いますけれども、西と東でえらいきれいだなど、差があると。なぜあのような差がついているのか。東側はきれいに清掃されているんです。西側は小さいパネルですから見えませんが、実は草ぼうぼうのごみいっぱい状態なんですね。用水の管理は市のはずなんですけれども、そのあたり、部長、どうされたらよろしいと思いますか。

○副議長（門 善孝君） 前田農林部長。

（農林部長 前田 茂君 登壇）

○農林部長（前田 茂君） 用水の管理につきましては、必要な予算の確保をまず着実にさせていただくということですが、予算に限りがありますので、そこを順次整備をさせていただくということで、計画的に整備をさせていただきたいと思っております。

○副議長（門 善孝君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） 整備はわかりました。せめて清掃ぐらいしてください。ごみぐらいとってきてください。ちょっと地元の人にあの中において取れというのは酷です。かなり差がありますし、怖いものがありますので、整備しろとは言いませんけれども、清掃はやっぱり見えるところですし、しっかりやっていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。